

この人は、現在、どのような「病気の状態の人」なのかを観察します。
できるだけ、「全体」を観察するように心がけます。目標は個別化することです。

主訴

◎開頭手術以来のけいれん発作。(通常医療はここだけを見る)

身体的症状(この人固有の特徴的な点＝個別化する)

- ◎3ヶ月毎に起きるけいれん発作
- ◎冷たい飲み物はとても苦手で、暖かい飲み物が大好き。
- ◎子供の頃は喘息で毎年決まったように7月下旬の深夜1時頃に発作
- ◎風邪をひくとしばしば下痢と嘔吐が同時に起きる。
そういうひどい風邪を1年に1回ペースひく。

精神的症状(この人固有の特徴的な点＝個別化する)

- ◎細かなことが気に掛かり、何でもキチンキチンとしないと気が済まない完璧主義
- ◎何かと先々の悪い予想をしては不安・心配になりがちである。
- ◎恐怖＝死ぬことと一人でいること。泥棒を異常に怖がる
- ◎恐怖・不安感＝現在は痙攣発作が起きたらどうしよう、倒れて死ぬのではないかと
いつもひどく怖れている。その際、落ち着きを無くす。

上記のようにこの人の特徴的な症状をまとめて、全体をよく眺めてみると
・・・全体を貫くような特徴があります。(この人固有の特徴的な点＝個別化する)

<この男性の病をまとめてみる＝統合>

- ◎主訴は、けいれん発作
 - ◎身体的には、「周期性」という全体的特徴と上記の固有の症状がある。
 - ◎精神的には、「恐怖と不安に支配されがち」であり、その際、落ち着きがなくなる。
-

オルガノン §1～3、特に §3-1～3 に沿って、考えてみましょう。

§3-1 何が癒されるべきでしょうか？(個別のケースにおいての病気の認識)

§3-2 どのようなレメディが必要でしょうか？(レメディを知る)

§3-3 選んだレメディをどのように飲めば、治癒しやすくなるのでしょうか？
(このケースの人に、レメディをどう適用して行くのが良いのか?)